
エターナル

味噌汁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エターナル

【Nコード】

N9624A

【作者名】

味噌汁

【あらすじ】

これは、一人の男が巨大帝国に立ち向かう話です。

序章

ここはレム村だ。

平和でのどかな村だ。だが、それもおしよせる軍隊の音でかきけされようとしていた。攻めてきたのは、この世界を荒らし回っているビッグアイズの連中だ。こいつらのほとんどがゲルニカ族で、特徴は目が異常に顔からはみ出していて、目から光線をだす。そのころ、レム村では大変なことになっていた。

「やばい！村を捨てるしかないよ！あんなのにかてないよ！」

と村人がいうと、みんなが、

「そうだそうだ。」

と同調するばかりだ。

「ちよつと待てよ！この村を捨てられるか！」

と声をあげたのはレイバンと言う剣士だ。

「なら、おまえだけ残れ。」

とはき捨て、みんなは村をあとにした。

「また．．．一人か．．．。」

と肩を落とす暇もなくゲルニカ族の偵察部隊がやってきた。

「ふはははは！この村もじきにE様の者となる！貴様しかこの村にはいないようだな．．．よし殺せ！」

と言ったが、手下はなぜか死んでいた。

「な．．．貴様！何をした！」

と部隊長は驚いていた。

「わからない？今のうちに動いたんだよ。お前もそろそろ失せな！斬影！」

とレイバンが言うと、部隊長は真つ二つになった。しかし、

偵察部隊なんて蟻のようなものだ。天下のゲルニカ族のことだから、また違国に違いない、レイバンはそう悟ったようだ。部隊長の死体に、今後の予定が記されていた。次は、商業の街のバイセンが狙

われるようだ。

レイバンはいそいでバイセンにむかつのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9624a/>

エターナル

2010年12月14日20時50分発行